

「非核宣言」道のり語る

左京で、東京・多摩市長



会場からの質問に答える阿部裕行・東京都多摩市長（左端）＝左京区で

核兵器廃絶ネットワーク京都は18日、京都市左京区で講演会「市民と自治体がひらく非核・平和への道」を開いた。東日本大震災と福島原発事故の反省に立った独自の非核平和都市宣言をした東京都多摩市の阿部裕行市長と、安保法制反対運動

事故での乳児向け飲料水配布などを振り返り、住民とともに震災と原発事故に向き合

で出した声明が反響を呼び20言語以上で翻訳された藤原辰史京都大人文研究所准教授（ドイツ現代史）が講演。約100人が聴き入り、講演後には活発な質疑が交わされた。

阿部市長は震災による計画停電対応、原発

い、震災8カ月後の非核宣言までの道のりを紹介。広島、長崎両市への小中学生派遣や太陽光発電推進など最近の取り組みも語った。

「創造的な非核思想を指して」と題し講演した藤原准教授は非核思想を考察。「非核思想は日本だけであってはならない。どの国もまねできない卓越した防災力を持ち、住民を守ることも必要」などと語った。

【篠田直哉】